

第70回
特別企画

能泉涌流多喜

高林白牛口二の謡を聴く会

対談

天野 文雄

高林白牛口二

翁

高林 呻二

高

砂

高林白牛口二

三

井寺

成田 達志

岩

船

高林 昌司

主催 高吟会

平成28年 7月8日(金) 午後6時30分始 十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席)

¥3,000均一 ※当日、高砂の謡本を販売いたします。

● お問合せ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

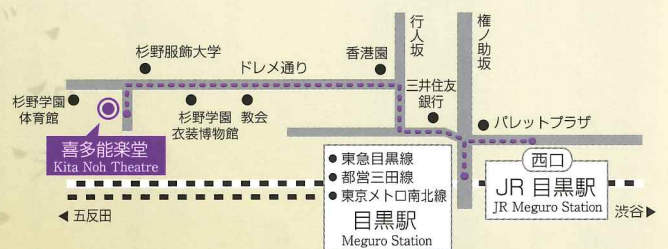
高吟会

TEL : 075-462-1490 FAX : 075-463-3494

E-mail : koginkai@f3.dion.ne.jp

http://www.f3.dion.ne.jp/~koginkai/

〒603-8354 京都市北区等持院西町15



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL : 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分

背景：わんや刊行謡本より抜粋

動静以天地
視哉涌泉美

鈿之翁

高林白牛口二の謡を聴く会

対談

大阪大学名誉教授

天野 文雄

高林白牛口二

休憩(十五分)

素謡

翁

高林 呻二

一曲独吟 高 砂

高林白牛口二

一調 三井寺

高林白牛口二

成田 達志

仕舞 岩 船

高林 昌司

以上

午後八時頃終了

主催 高吟会

喜多流涌泉能特別企画

「高林白牛口二の謡を聴く会」を始めるに当たって

(文中敬称省略)

私の父であり師匠である高林吟二は明治三十五年生まれ、十歳になる前に十四世六平太の住込み内弟子となりました。当時の六平太は四十歳前で気力盛んでした。またその頃は、幕末から明治に掛けて活躍し、六平太の指南役となった梅津只圓の弟子達、中でも梅津只圓の娘婿野中到等が、飯田町の喜多舞台を訪れては、能や謡に浸る時間を過ごしていました。その人達の謡を鼓膜に聞き留め、また舞う姿を網膜に焼き付けた吟二は、それらを終生離れられない感動として保ち続けていました。

能の持てる昇華された芸術性の追求に一生を掛けた吟二は、京都に伝えられてきた伝承を基として、古老達の持ち合わせた気品の高い芸術性を併せ、その上に六平太の裂帛の気迫を加えて、独自の芸風を作り上げました。六平太も十五世喜多実も、吟二の芸術性の高い能には一目も二目も置いていました。特に喜多実は、京都の吟二の稽古舞台で父と私の二人だけの地謡で「西行桜」の能を舞った時、吟二に「君は謡を作り上げたね」と感嘆しました。

私は父吟二のみに教え込まれた者でしたから、喜多実は私の芸力を見実するために、喜多舞台にて臨時の稽古能を行い、私に「山姥」の能を舞わせました。その結果、喜多流職分として名を連ねる事になりました。昭和四十六年春、私が三十五歳の事です。それまでの喜多流では、家元の内弟子として修行を積み、許された者のみを、職分として認めて来ました。私は唯一の例外です。またその時に喜多実は私に、父の全てを確りと受け継ぐように命じました。

私の父は、自分の究めた謡と舞の姿を、擦り込むようにして私を作り上げました。謡い方は勿論のこと、能の舞い方、その心の持ち方、また日常生活態度など、細々としたことまで、全てを教え込みました。父の存命中には気がつかなかったことが、五十歳を過ぎた頃から、折りに触れて反芻する如く浮かんで来て、父の教育法の綿密さに感服させられています。

今八十歳を過ぎて思う事は、残念ながらどんなに努力をしても、自分が目指す舞台に体力がついてこないことです。自分の理想の姿を具現できないと感じるだけでなく、その姿や動きが観る人々

に不安や心配、引いては憐れみを誘うようになり、老醜を衆目に晒すことになって、それまでの栄光が全て消え去ってしまいました。これは、私には耐えられないことです。

でも私の気力は、まだまだ健在です。そこで今の私に何か出来ることはないかと考えました。私の持っている「謡」ならこの体力でも、まだ人々に聞いて頂くことが出来るのではないかと思います。この度「独吟を聴く会」を立ち上げる決心をしました。百年前の謡を蘇らす独吟会です。これは「喜多流涌泉能」の特別企画として、第七十回へと回数を重ねる事とします。

ここで謡います謡は、今から百年程前に父が魅了させられたその頃の古老達の美しい謡に、六平太の気迫を加え、音楽性の高い謡として父が作り上げて、私に教え込んだ謡です。

現在は謡から音楽性が消えているように感じます。謡は音楽です。声を使って聴かせる音楽です。謡だけを聴いて、能としての情景や感情の表現が出来るものと信じています。現在の能界においてその試みが皆無とは思いませんが、私は声の続く限り継続してやってみようと思っています。

一曲を一人で謡います。何分にも老齢ですから万全を期して謡うため、百年前の謡本を見て謡います。皆さまも謡本をご覧になってお聴き下さい。

この企画に賛同と励ましを頂いた多くの方々に、深く感謝致します。

平成二十八年三月吉日

高林白牛口二

次回予告(通常公演)

平成二十八年十一月十二日(土) 大江能楽堂

能 忠 度 高林 呻二
能 百 万 高林 昌司